

Vol. 11 「永松農園れんこん」交流会 産直レポート

訪問日:2023年11月8日(水)

今回のレポート担当は伊万里・有田エリアくみかつスタッフです



水圧れんこん堀ホースを使つての収穫

4月に植えた種れんこんは、一節ずつ伸びていき5節に達する6月頃から太さを増していきます。7月中旬から収穫が始まり、11月12月にピークを迎えます。永松農園には60ものれんこん水田があり、水位や土壌の違いを見極めホースの水圧角度や振り幅を調節して収穫されます。夏は炎天下で、冬は張った氷を破りながら、時にはホース内まで凍る寒さの中での作業になります。



隣敷地で水中の収穫実演をする従業員の小野考厚(たかあつ)さん



種れんこんは、右から左へと成長していきます。右2節は繊維質でシャキシャキ感がありきんぴらに向いています。先の太い部分はホクホク感があり煮物に向いています。



丁寧に掘られた種れんこんは、この状態で翌年のため植えられます。



収穫されたれんこんは作業場へ運ばれ、節々の根を取りのぞき傷んだ箇所をカット、計量して箱詰めされます。



痛みや商品にならないれんこんは永松農園の処理場に運ばれ、風化して砂状になるまで置かれます。ふたたび水田として利用されます。

若い作業員の方が多く、パートさんは7時30分～15時まで。マンマからの実習生が3人と正社員男性です。特にれんこん水田での収穫は大変な重労働です。実習生にも優しい眼差しを向け『ここで辛抱出来れば帰国後も頑張れますよ』と。永松敬祥(ひろよし)社長の信頼厚い小野さんは共に様々な交流会へ参加されています。



れんこん・大根・牛すじ丸天のおでん。れんこんは厚切りの輪切りと乱切りだと微妙に違いがあります。